

## 国際セミナー「鉄道整備と沿線開発」 運輸総合研究所 宿利 正史 会長 挨拶

サワディーカップ。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

本日の国際セミナー「鉄道整備と沿線開発」に、タイ王国の皆様、タイ在住の日本の皆様など、多くの皆様方にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

まず、最初に本日のセミナーの開催にあたりまして、多大なるご支援・ご協力を賜りましたアーコム・トゥームピッタヤーパイシット タイ王国 前運輸大臣閣下、パイリン・チューチョートターウォーン タイ王国 前運輸副大臣、タイ王国 運輸省、在タイ日本国大使館、日本の国土交通省、JICA、在タイ日本商工会議所などの皆様方に対しまして、心から感謝申し上げます。

また本日は、ご多忙の中、アーコム タイ王国 前運輸大臣閣下、ソラポン・パイトゥーンポン タイ王国運輸省鉄道局長、岡西康博 国土交通省 国際統括官、関口昇 在タイ日本国大使館 公使のご臨席を得て、後ほどご挨拶をいただけることに厚く御礼申し上げます。

さて、私ども運輸総合研究所は、日本が高度経済成長の真只中にありました1968年に、当時の運輸省と、ちなみに当時の運輸大臣は後に内閣総理大臣になりました中曽根康弘大臣でしたが、経済界、学界の協力により、運輸交通、観光分野のシンクタンクとして創設されました。以来、52年間にわたり、運輸交通及び観光に関する政策提言や研究・調査、各種セミナーの開催など精力的に活動してまいりました。また、この間1991年に米国ワシントン D.C.に JITTI USA (Japan International Transport and Tourism Institute, USA) を設置し、運輸交通及び観光分野の国際的な活動にも力を注いでおります。

ASEAN の主要国であるタイ王国と日本は、これまでに600年にわたる交流の歴史を持ち、2018年には、タイ王国から日本への渡航者は114万人、日本からタイ王国への渡航者は164万人、合計で278万人となっております。昨年はさらに大きな数字となっておりますが、このように近年人的交流が一層盛んになっています。また、長年の両国の皇室・王室間の親

密な関係を基礎に、日本とタイ王国の間には、政治、経済、文化などの幅広い面で緊密かつ重層的な関係が築かれています。

一方、タイ王国の運輸交通分野においても、レムチャバン港やスワンナプーム国際空港の整備、ブルーライン、パープルライン、レッドラインなど都市鉄道の整備や、バンコクとチェンマイとの間を結ぶ新幹線システムによるタイの高速鉄道整備計画の策定、また、道路交通安全の分野におけるアジア・ジャパン・セーフティネットワーク・プロジェクトなど、両国間の緊密・良好な協力・連携の実績が数多く見られます。

本日のセミナーは、これまでの両国の良好な協力関係の延長線上で、「鉄道整備と沿線開発」という大変重要な政策課題をテーマに、当研究所の元所長であり、現在でも研究アドバイザーである政策研究大学院大学の森地茂政策研究センター所長に基調講演をお願いし、引き続き、森地所長を委員長とする、当研究所にて設けている「鉄道整備と沿線開発に関する研究会」の成果を当研究所の武藤主任研究員から報告します。

後半のパネルディスカッションでは、2019年4月にタイ王国運輸省に創設された鉄道局のソラポン局長、日本大学理工学部の福田敦教授、そして森地所長にご登壇いただき、政策研究大学院大学日比野直彦准教授をモデレータとして、タイ王国における鉄道整備と沿線開発の課題や将来展望について議論していただきます。

主催者といたしまして、本日のセミナーが、ご参加いただきました皆様方にとりまして有益なものとなりますように、また、タイ王国における今後の鉄道整備と沿線開発の調和ある展開の一助となりますことを、強く希望しております。

ところで、当研究所は、ASEAN地域における国際的な活動を継続的に強化していくため、活動の拠点を今年中に新たにバンコクに設置することとしています。このための諸準備や設置後の本格的な活動につきまして、タイ王国運輸省をはじめタイ王国の関係者、在タイ日本国大使館ほか多くの関係の皆様方のご理解とご支援、ご協力を賜りますよう、この場をお借りしてお願い申し上げます。

最後になりますが、運輸総合研究所の活動は、日本財団の特別の支援

を受けて行っていることを申し添え、開会のご挨拶といたします。

コップンカップ。

以 上